

地区紹介

日吉地区

今期の日吉地区青少年指導員協議会は鈴木由美子会長のもと、新メンバー4名を含む男性12名、女性12名の合計24名体制で始まりました。男性、女性とも仕事を持ちながらの方も多く、みんなで助け合いながら活動しています。活動のひとつとして一年に一回、近くの消防署の方々をお招きし、AEDを使用しての救命処置をご指導いただいています。今年は初心者とその他に分かれ、経験者は乳児・小児などの応用編も教えていただきました。

青少年指導員の活動としてその他にもペットボトル大会、夏休みお仕事見学、ウォークラリー、自然体験教室等行っていますのでぜひご参加ください。これからも地域の為に頑張って活動をしていきます！ご協力よろしくお願いいたします。



日吉地区

師岡地区

師岡地区は繁華街もなく、まだまだ自然が残る住宅地区です。4町会長より推薦いただいた青少年指導員6名で構成。青少年指導員の目的である、他団体と協力しながら青少年の健全育成のために活動しています。

4月には、小・中学校入学式に出席し、子どもたちと先生方との最初の出会いを大切にしています。その後も、小・中学校の行事に参加、出席しながら、子どもたちとできるだけあいさつを交わします。

6月には樽町中学校区(樽町・網島・大曾根・師岡)との交流イベント「レッツ・プレイ・ボウリングwith中学生」を行い、学校生活以外での子どもたちと交流、楽しい時間を過ごしました。

7月には港北区ペットボトルロケット大会を前に、スポーツ推進委員、子ども会、はまっ子の協力を得て、製作講習会・飛距離大会を開催しました。暑い体育館の中、親子で作り上げ、いざ飛ばした瞬間に大きな歓声があがり、暑さも吹き飛びました。素敵な笑顔を見ることができ、私達にもとてもうれしい時間になりました。また、公会堂での映画会の後には午後10時からの一斉パトロールを行いました。

12月には、小・中学校連携の架け橋になればと、はまっ子・青指の共催で、地域の協力を得て「師岡はまっ子ふれあいコンサート」を開催いたします。

その他には、連合4町会行事への協力等を行っています。毎月定例会を行い、行事を通して、地域の子供たちとのふれあいをより大切にし、青少年が健やかに育ってほしいと願っています。



師岡地区



あいちゃん
このマークは、青少年にやさしい環境を願ってヨコハマの青少年指導員が決めたものです。

編集後記

3面に掲載の「青少年の非行防止に関する取り組み」の記事執筆のため、「青少年の非行・被害防止全国強調月間」や、その他関連する活動について、過去からの経緯、他地区、他県での対応状況などをいろいろ調べてみました。

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」は内閣府が提唱する活動のため、すべての都道府県で実施され、報告があがっています。規模の大小はありますが、各地区同じような活動が展開されていました。中にはお祭りやイベントに結びつけてアピールしようと工夫されているものもあります。お隣の神奈川県では、ペットボトルロケット大会を青少年の非行・被害防止の取り組みの一環として位置づけているようです。港北区では、これまでの取り組みの成果として、少年の補導者数が年々減っているようですが、青少年犯罪への対策には、まだまだ課題があるようです。

急増するネット犯罪や、薬物など、危険、脅威は身近にあることを再認識し、青少年にどのように向き合うかを改めて考えてみたいと思います。



港北区青少年指導員協議会広報紙

港北青指

第34号
平成26年11月発行
発行者 港北区青少年指導員協議会
編集 広報委員会
事務局 港北区大豆戸町26-1
港北区役所地域振興課内
TEL 045-540-2238
FAX 045-540-2245

港北青指

青少年の健全育成を進める県民大会

平成26年7月12日(土)、海老名市文化会館大ホールにて多数参加して「青少年の健全育成を進める県民大会」が開催されました。

オープニングでは県立中央農業高等学校和太鼓部による勇壮かつ華やかな和太鼓で会場全体が盛り上がり、基調講演を挟んで、現役教員や青少年代表として県立海老名高等学校の生徒たちが参加した、青少年の居場所についてのパネルディスカッションが行われました。

印象的であったのは教員生活25年を越える加留部先生の苦悩に近い話。生徒指導も昔は「不良」と言われる子どもたちは自己主張が強く指導も多分に人情のこもったものであったが、近年はコミュニケーション手段の発達(携帯電話・スマートフォン等)により「友達」というものの定義も大きく変化したのではないかと懸念されていました。最近の生徒指導の難しさの一旦を垣間見た瞬間でした。

最後に、今回は大会の司会・進行は柏木学園高等学校の生徒により行われ、オープニングの中央農業高等学校和太鼓部やパネリストの海老名高等学校の生徒や裏方で活躍されている地域の高校生の皆さんの協力により大会は無事終了しました。



基調講演:

「心の居場所の大切さ～大人たちは子どもに何ができるのか～」

講師は元ニュースキャスターで現在は鎌倉女子大学教授で少年犯罪研究者として活躍中の春日美奈子氏。

春日さんは少年院・教護院(現・児童自立支援施設)での実習を通し、現場の「今」や「生」の声を大切に、少年犯罪問題に取り組んでおられます。春日さんは、青少年の「心の居場所」の不在を訴え、「心の居場所」とは第一に「家庭・家族」であり、第二に「学校」そして「住んでいる地域」とのこと。私たち大人はうるさがられても子どもたちの「話し相手」になれるような存在になるべきであるとつくづく考えさせられました。

横浜市青少年指導員研修会

平成26年10月5日(日)に「横浜市青少年指導員研修会」が催されました。開催地の戸塚公会堂には大きなパネルが8枚、各地区の活動が紹介されていました。

オープニングは深谷中学校・俣野小学校による「青春ソーラン節」、元気な子どもたちが迎えてくれ、戸塚発! 防犯テーマソング「つながろう戸塚～サヨナラ振り込め詐欺～」も会場を盛り上げます。

主催者石井一也会長のあいさつでは、子どもや若者とのコミュニケーションが大事と説き、取り巻く環境の変わる中、困難に立ち向かっていく彼らとの繋がりが最も重要であるとしっかりお話し頂きました。田雑由紀乃戸塚区長と常盤欣二戸塚区連合町内会自治会連絡会会長の方々も来賓頂きました。

戸塚区での活動報告では、小中高の若者を対象とした「いきいきアートフェスティバル」、小学生を対象とした「チャレンジフェスティバル」、中学生を対象とした「防災対応強化研修」の3つをスライドにて紹介されました。

基調講演では、フリーアナウンサー朝岡聡氏の「コミュニケーションと発想のヒント」。朝岡氏の心掛けていることは、あいさつから始まるコミュニケーション「あかるく」「いっしょ」「さきに」「つづけて」の4つ。特に「さきに」あいさつをする事が重要で、「つづけて」世間話に向かえれば相手の心も開いていくのではと話されました。また、あいさつのツボには「相手と同じ目線に合わせて」「答えるよりも応えることが大事」の2つがあり、「聞く」より「聴く」そして、子どもの気持ちを引き出す「訊く」が大事とわれわれ大人の行動基調をこまやかに説いて下さいました。

今回は磯子区での開催の予定です。



第18回 ペットボトルロケット大会

平成26年9月6日(土) 鶴見川樽町公園にて第18回ペットボトルロケット大会が開催されました。参加者は284名、来場者数は約650名。曇り空に時々晴れ間がのぞく過ごしやすい一日でした。今年も40m～50mに設定した「はやぶさ賞」は対象者が続出で一回目で景品がなくなってしまいました。飛距離が更新される度に順位が心配で記録ボードの前から離れられない参加者もいました。今年もデザイン部門の完成度は高く、どの作品に投票したらいいのか悩む姿も見受けられました。映画「宇宙兄弟」の中で、兄弟はペットボトルロケット大会が宇宙飛行士を目指すきっかけになった事が描かれ、その事を紹介する記事も新聞に掲載されました。この事がきっかけで大会が注目され、参加者が増えていくといいですね。今回の大会も体調不良や大きな怪我の報告もなく無事に終了する事が出来ました。大会を開催するにあたり、朝早くから御協力いただいた皆様に感謝いたします。皆様、本当にお疲れ様でした。



大勢集まりました。



選手宣誓!



発射10秒前!



飛んだ!



どれくらい飛んだかな?



デザイン部門展示コーナー

第18回ペットボトルロケット大会 開催結果



澤津花蓮さん「ペットボトルはお父さんと作りました。優勝して嬉しかったです。」



矢部真由子さん「毎年3位だったけど6年生で1位になれてよかったです。真ん中にモバイルをつるすのが苦労しました。」

飛距離部門順位

順位	名前	地区	飛距離
優勝	澤津 花蓮	日吉	81m10cm
2位	山下 紗幸	新羽	81m00cm
3位	大久保健琉	日吉	80m00cm

デザイン部門順位

賞	名前	小学校
港北区長賞	矢部真由子	大綱小学校
ふるさと港北ふれあいまつり会長賞	手塚 玲有	新田小学校
港北区青少年指導員協議会会長賞	吉川奈那美	師岡小学校

青少年の非行防止に関する取組について

青少年指導員協議会は、内閣府が主唱する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」における活動の一環として様々な取組を行っています。

青少年の非行・被害防止全国強調月間は、昭和54年から非行防止に関する月間として実施が継続されている活動で、学校が夏休みに入る毎年7月に関係省庁、地方自治体及び民間関係団体が連携して総合的な非行・被害防止活動が展開されています。重点課題は以下7項目です。

- 重点課題1 インターネット利用に係る非行及び犯罪・被害防止対策の推進
- 重点課題2 有害環境への適切な対応
- 重点課題3 薬物乱用対策の推進
- 重点課題4 不良行為及び初発型非行(犯罪)等の防止
- 重点課題5 再非行(犯罪)の防止
- 重点課題6 いじめ・暴力行為等の問題行動への対応
- 重点課題7 青少年の福祉を害する犯罪被害の防止



特に重点課題1のインターネット利用に係る非行及び犯罪被害防止対策については、スマートフォンを始めとする新たな機器・サービスが急激に浸透するなど、インターネット利用環境の変化に応じた取組が必要となっています。

神奈川県、横浜市でも、この期間中に、青少年を取り巻く社会環境の健全化を一層推進するための様々な取組が実施されています。

◆神奈川県での主な取組

1. 青少年の健全育成を進める県民大会
2. 青少年喫煙飲酒防止のための年齢確認の呼びかけ
3. 社会環境健全化推進街頭キャンペーン

7月12日(土)に開催された青少年の健全育成を進める県民大会は、青少年指導員および青少年育成関係者が多数参加し、実態の把握に努めました。本紙1面に参加報告を掲載していますので、合わせて参照ください。



活動は今後も継続し、青少年を有害な環境から守るまちづくりを推進していきたいと思ひます。

◆横浜市での主な取組

1. 全市一斉統一行動パトロール
2. 社会環境実態調査

それぞれ青少年指導員が主体となり展開している活動です。

全市一斉統一行動パトロールは、7月19日(土)に港北区13地区ごとに夜間パトロールを実施しました。コンビニや繁華街、公園など、夜間に青少年が集まりやすい場所、人通りの少ない場所の実態を把握しています。今回で16回目となりました。

社会環境実態調査

この調査は、青少年の健全育成への影響が考えられる各種営業の状況を把握する為、カラオケボックス、インターネットカフェ、漫画喫茶、書店等を訪問し、聞き取り調査や店内確認を行っています。内閣府が主唱する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に合わせ7月～9月を調査期間として各地区ごとに港北区内を調査しました。項目や調査結果については、神奈川県のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4151/p12577.html>